

令和4年度下半期学校評価・学校生活・自己評価アンケートの結果と分析

学校運営協議会 令和5年3月16日

京都市立嵐山東小学校  
校長 河 崎 由 佳

日頃は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。  
保護者の皆様にご協力をいただいている「アンケート」調査を学校評価の大切な指標として、保護者の皆様のご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。  
今年度も、2月に「下半期アンケート」として、ご協力いただきました。結果をもとに、本校の教育活動の中で、継続発展すべきところ、改善すべきところや課題を明らかにし、来年度の教育活動に生かしていきたいと思います。

1. 結果

保護者

	実現度			
	よく 出来ている	大体 出来ている	あまり 出来ていない	出来ていない
学校の教育方針や教育活動が学校 だより・学年だより、ホームペー ジなどを通して伝わっている。	26.8%	65.4%	7.3%	0.5%
教職員は熱意をもって教育活動に 意欲的に取り組んでいる。	36.6%	59.0%	3.9%	0.5%
教職員に気軽に相談できる。	30.2%	54.6%	13.2%	2.0%
学習環境は整っている。	17.2%	74.4%	7.9%	0.5%
子ども達は、意欲的に学習に取り 組み、学習したことを理解してい る。	16.1%	67.3%	16.1%	0.5%
子ども達は、自ら進んであいさつ をすることができる。	11.3%	52.9%	34.8%	1.0%
子ども達の話聞く姿勢が育って きている。	10.3%	77.9%	11.8%	0.0%
子ども達は、きまりを守って生活 している。	17.1%	74.1%	8.8%	0.0%
子ども達は、よい友だち関係を築 いて楽しく過ごしている。	26.8%	64.9%	7.8%	0.5%
子ども達は、「早寝・早起き・朝 ごはん」など基本的な生活習慣が 身に付いている。	28.8%	54.6%	14.6%	2.0%
子どもと会話する時間を大切にし ている。	32.7%	60.9%	6.4%	0.0%
学校から配られるお知らせのプリ ントなどは必ず見ている。	36.8%	55.3%	6.4%	1.5%
教育活動（参観・懇談会など）に 積極的に参加している。	25.9%	47.3%	24.4%	2.4%

児童

	適合度			
	そう思う	大体そう思う	あまり そう思わない	そう思わない
学校は楽しいですか。	56.8%	32.3%	7.5%	3.4%
なかよしの友だちはいますか。	86.8%	11.7%	1.1%	0.4%
友だちは大切にしていますか。	74.8%	21.9%	2.6%	0.7%
勉強（じゅぎょう）はわかります か。	61.1%	30.4%	7.7%	0.8%
じゅぎょう中進んで発表しています か。	34.2%	36.5%	20.2%	9.1%
しゅくだいはしていますか。	76.0%	17.9%	3.8%	2.3%
自分から「おはよう」とあいさつし ていますか。	44.8%	32.7%	15.4%	7.1%
学校のきまりややくそくはまもれて いますか。	44.2%	43.3%	8.7%	3.8%
先生や友だちの話をしっかり聞けて いますか。	60.4%	30.2%	7.5%	1.9%
家に帰ってから学校であったことを よく話しますか。	44.4%	25.5%	17.9%	12.2%

教職員

	実現度			
	よく 出来ている	大体 出来ている	あまり 出来ていない	出来ていない
子どもにとってわかりやすい授業を 進めている。	0.0%	77.8%	22.2%	0.0%
子ども・保護者からの相談に適切に 対応している。	5.3%	84.2%	10.5%	0.0%
学習しやすい環境を常に整えてい る。	15.8%	78.9%	5.3%	0.0%
子どものよいところを見つけほめて いる。	0.0%	90.5%	9.5%	0.0%
一人一人の人権を大切にした教育活 動をすすめている。	5.0%	85.0%	10.0%	0.0%
子どもは意欲的に学習に取り組んで いる。	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
子どもは自ら進んであいさつをする ようになってきている。	4.8%	38.1%	38.1%	19.0%
子どもは話を聞く姿勢が育ってきて いる。	0.0%	35.0%	65.0%	0.0%
子どもは学校のきまりや約束を守っ て生活している。	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%
子どもは良い友だち関係を築いて楽 しく過ごしている。	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

## 2. 分析

### 1) 学習面

・子ども達は、意欲的に学習に取り組み、学習したことを理解している。(保護者)

保護者アンケートの中では、「よくできている 16.1%」、「大体できている 67.3%」という回答でした。自由記述からは、

○「学校での授業内容や友だちとの出来事をたくさん家で話しており、楽しく学びながら過ごせていると感じます。自分の考えとは違う、友だちの反応などに疑問をもつこともあるようですが、色々な考え方があることを少しずつ理解してきているように思います。」

○「参観で、人権学習を見せていただきました。少し残念な意見もありましたが、何度も人権学習を受けていく中で、差別することはいけないことだと学んでほしいと思います。」

○「個々の学習状況や性格に合わせて、無理をさせすぎず、挑戦できるように、丁寧に声をかけてくださったり、励ましてくださったりして、感謝しています。そのおかげで、1つ1つ少しずつ成長し、安心して学校に通えていると思います。これからもよろしくお願いします。」

○「3年生になって、学習の量や難しさも増して、毎日の宿題に苦戦しながら取り組んでいる印象ですが、先生やお友だちにも聞いたりして、わからないままにしないという姿勢は身に付いているなと思います。子どもが勉強に集中できる環境づくりは、保護者としてもっと努力して作っていったらいいと…と反省しています。」

●「自主学習の必要性を、子どもも保護者自身も理解していない。中学生になったら必要になる力だと担任より説明があったが、実際中学生の息子は、自主学習より、くり返し復習する力や暗記する力が必要だと強く感じる。毎日の学習(宿題)は、復習メインで、自主学習は、気持ちや時間に余裕のある週末だけで良いのではないか。」

●「勉強の意欲が2年生になって落ちてきていることが気になります。自分で字が汚いことに気づいているが、汚く書いても先生がハナマルをつけてくれているので喜んでいる。基礎の時期なので、厳しくするところは厳しくして欲しいなという気持ちです。勉強が好きだったのが、嫌になりつつある。」

●「他の小学校と比べても嵐山東小の自主学習の量が多いと感じることがあります。高学年になると自主学習が毎日2ページと聞いて、少し心配しています。メリットも多いと思いますが、「市販のドリルやプリントを出してもよい」「計算や漢字の学習が続いてもよい」など、幅広い取り組み方が認められ、周知されるといいなと思います。」

という意見がありました。

子ども達がドリルなどの問題を解くだけの宿題では得られない力を自主学習でつけていけるように、来年度は各学年に応じた家庭学習計画を立て、取り組んでいきたいと考えています。児童生徒に関わる全ての大人に期待される役割として、学習指導要領前文に「児童生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくこと」と書かれています。教員の授業改善、家庭学習の充実、保護者との連携等を通して、今後も、子ども達が『自律的学習者』として学力を伸ばせるように、教職員一丸となって、子ども達の育成に取り組んでいきたいと考えています。

ご家庭においても、お子達が家庭学習に取り組む際には、アドバイスや励ましの声かけなど、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

### 2) 生活面

○「春から学校生活が始まり、約1年でできる事がたくさん増え、自信になり、いろんな事に挑戦する姿が増えてきました。体も心も大きく成長した一年だったと感じています。」

○「コロナ禍でも徐々に友だちと遊ぶ時間が学校で増えたようで、窮屈な生活から少しずつ脱してきたような気がします。マスクであまり笑う顔が見えないようですが、今後学校行事や学習において子ども達が以前のようにのびのび過ごせる日が来ることを望みます。」

○「子どもが「心」にまでマスクをつけないように、子どもの言葉や行動に「自分目線」でむきあわないように気をつけていきたいと考えております。」

●「集団登校の子ども達全員に向けてしたあいさつに返事が返ってくることはない。一人一人、顔や名前を言っていたあいさつには、返事が返ってくる。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。受動的でなく、能動的にあいさつできるようになってほしいと思う。」

●「朝は特に仕方ないのかもしれませんが、我が子も含め登校時に全学年、元気がなく挨拶もほとんど返ってきません。子ども同士が話すこともあまりありません(時代なのかコロナ禍だからか、登校班の他学年とのコミュニケーションも少ないと感じます)。下校時の元気な姿との違いに驚くことも多々あります。挨拶においては少しずつ変わっていくのかな…と期待をもち、こちらからの声掛けを続けていきたいと思っています。」

という意見がありました。

学校でのコロナ感染対策が3年に及んでいることで、マスクを外すことをためらったり、大きな声であいさつできなかつたりする現状が見られます。今年度、コロナ感染対策をとりながら、教育活動や学校行事を見直してきましたが、来年度は「人と話す表現力」を取り戻す必要があると考えています。コロナ禍が児童に与えた影響を考え、家庭、地域社会、学校における教育と一緒に考えながら、教育活動を進めていきたいと思っています。

### 3) その他

◇「面談や懇談会、参観に参加しても学校での様子がわからない為、仕事を休んでまで参加する意味が薄れています。心配です。」

◇「難しい年頃の子供達のことを、担任の先生はじめ、学校の先生方皆様でよく見ていただいていると思います。ありがとうございます。4年生の時にコロナが始まり、行事、特に宿泊学習や社会見学等の機会に恵まれなかった学年なので、今日の社会見学は貴重で本人も家族も楽しみにしています。授業参観は6年間を通して道徳が多く、学校側が見せたいものと親が見たいもののミスマッチが感じられました。コロナのおかげでタブレットが正式導入され、学習環境がアップグレードされたのは大変良かったです。もっと活用が進むことを期待します。」

◇「コロナで学校に寄せていただく機会が減り、その分、先生方とお会いすることも減り、同級生の親御さんとお会いすることも減り、気付かないうちにコミュニケーションがなくなるものだなあと実感します。R5年度はまた状況が変われば、積極的に行事にも参加できればと思います。」という意見がありました。

参観授業教科、学級懇談会・個人懇談会のもち方など、来年度は保護者の方に、学習内容やお子達の様子がよく伝わるように改善していきます。そして、教職員が保護者・地域の皆様と学校行事などを通して関わりを深め、笑顔あふれる嵐山東小学校にしていきたいと思っています。